

吉野川水系河川整備計画 平成29年度 第3回 吉野川学識者会議 を開催しました

「吉野川直轄河川改修事業」ならびに「吉野川総合水系環境整備事業」の事業評価を実施し、学識者にご意見を伺いました。

吉野川直轄河川改修事業は、河川整備計画の変更に伴う事業再評価、吉野川総合水系環境整備事業は、前回評価から一定期間の3年間が経過した事に伴う事業再評価を行い、さらに個別の事業完了箇所は事後評価を行いました。

再評価の視点として、事業を巡る社会情勢等の変化、事業の投資効果、事業進捗の見込み、コスト縮減や代替案立案の可能性などについて事務局より説明を行い、学識者の方々に審議いただきました。

その結果、吉野川学識者会議において、吉野川直轄河川改修事業ならびに吉野川総合水系環境整備事業を事業継続とする判断は、妥当との意見をいただきました。

□開催日時：平成29年11月16日（木）

10:00～12:00

□開催場所：徳島県教育会館

（5階 小ホール）

□出席委員：13名

□傍聴者：5名

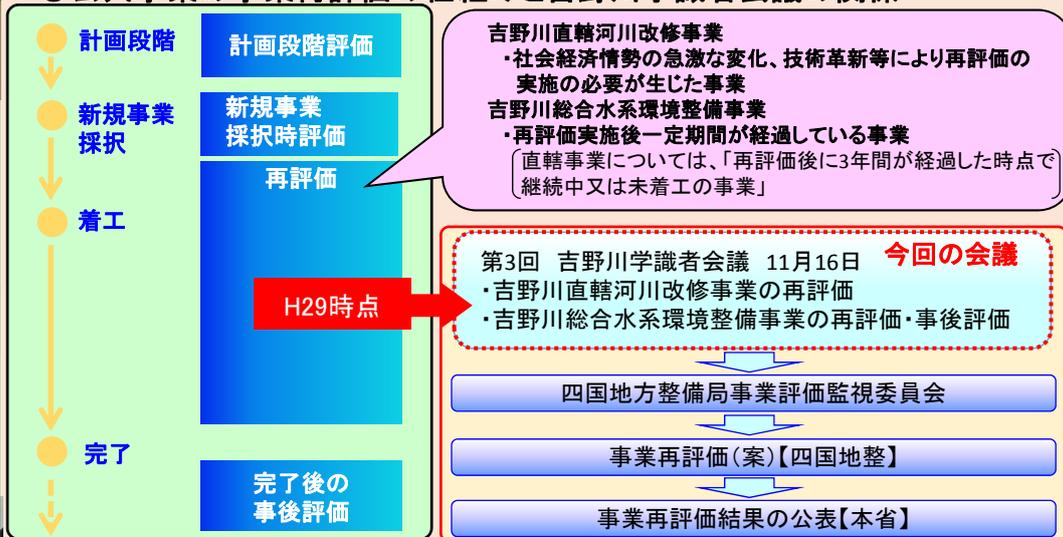


吉野川学識者会議 委員名簿

氏名	専門分野	所属	氏名	専門分野	所属
池田 早苗	水質（水環境）	徳島大学 名誉教授	田村 隆雄	治水計画（森林水文学）	徳島大学大学院 准教授
渦岡 良介	地盤工学・地震工学	京都大学防災研究所 教授	田村 典子	児童教育	四国大学生活科学部 教授
角道 弘文	農業水利	香川大学工学部 教授	中野 晋	沿岸域工学	徳島大学環境防災研究センター 教授
鎌田 磨人	生態系管理（生態学）	徳島大学大学院 教授	中村 昌宏	地域経済	元徳島文理大学総合政策学部 学部長
河口 洋一	魚類学	徳島大学大学院 准教授	平井 松午	歴史地理学・歴史GIS	徳島大学大学院 教授
木下 覺	植物分類学	徳島県植物研究会 会長	三神 厚	防災対策（地震）	東海大学工学部 教授
上月 康則	水環境（環境工学・生態系工学）	徳島大学環境防災研究センター 教授	武藤 裕則	洪水防御（河川工学・水理学）	徳島大学大学院 教授
小林 實	鳥類	河川・溪流環境アドバイザー	大和 武生	文化史・文化財	阿南市文化協会 会長
田中 俊夫	地域福祉	徳島大学 教授	山中 英生	地域づくり	徳島大学大学院 教授

※渦岡委員、鎌田委員、木下委員、上月委員、小林委員は所用により欠席となりました。欠席された委員には事務局より事前に説明を行い意見を伺いました。

●公共事業の事業再評価の仕組みと吉野川学識者会議の関係



議長 中野 晋

中村 昌宏

田村 典子

平井 松午

田村 隆雄

三神 厚

田中 俊夫

武藤 裕則

河口 洋一

●吉野川学識者会議のご意見

1. 吉野川直轄河川改修事業の再評価について

- 水害の被害指標分析における事業実施後の被害人口の算出において、将来的に高齢化社会が進行するとともに人口が減少することが明らかな中、どのような条件の下で分析しているのか、設定を明記してほしい。
- 社会情勢の変化は、世帯数や高齢者の割合なども考慮した評価が適切であると考えます。
- 被害想定シミュレーションは、前提の計算条件を明記するなど分かり易い資料としていただきたい。
- 内水被害は、吉野川本川の整備が進捗しても解消されないの、県や市町が管理する河川の整備と歩調を合わせる必要がある。
- コスト縮減の表現は、進捗率だけではなく、実際に縮減された事業費も明記してほしい。
- 投資効果の感度分析で、残工期+10%のケースが設定されているが、事業実施においては早期完成に心がけてほしい。

原案に対して、吉野川直轄河川改修事業の事業継続は、妥当と判断する旨の意見をいただきました。

2. 吉野川総合水系環境整備事業の評価について

- 環境整備は非常に重要であるが、現時点では色々な社会効果を短期間で定量的な尺度として算定する手法が存在しないことから、長期的な視点でストック効果を定量的に把握できるよう取り組む必要がある。
- アンケート結果は利用目的、年代、性別など詳細な分析結果を実施することで、非常に有用なデータとして活用できると考える。
- 水辺整備によるダム湖利用については、外来種対策についても十分留意していただきたい。
- 早明浦ダム水環境整備のモニタリングは、事業効果が見えるように取り組んでいただきたい。

原案に対して、吉野川総合水系環境整備事業の事業継続及び完了箇所的事後評価は、妥当と判断する旨の意見をいただきました。

角道 弘文

大和 武生

池田 早苗

山中 英生

●【平成29年度 第3回 吉野川学識者会議】の会議資料は、徳島河川国道事務所のウェブサイトからダウンロードすることができます。